

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより

小林十三雄 東京都在住(とちの木出身)

富士見町総合文化祭に出展する「東都高原富士見会」の人々の作品は、あきる野市の私の家に集められ、私愛用の軽貨物車で桜原街道を走り小菅村に松姫峠を越え猿橋、岩殿山、の大月に向かった。途中小金沢山、黒岳を源流とする葛野川、土室川の合流した深城ダムの公園に出た。石碑が五つ並んでいた。何気なく読んでみると、その一つ黒みかげの碑の終わりに渡辺千秋の名が刻まれていた。



▲渡辺千秋

私の母の遠い親戚で、富士見渡辺別荘(分水荘)の所有者であった渡辺大臣のかかわった御沙汰書であった。(皇室財産である御料林が荒廃し、これが原因とされる水害が起きた。明治44年、宮内大臣子爵であった渡辺千秋氏より内閣総理大臣侯爵、桂太郎氏に宛て、御料林およそ298,200町歩を山梨県へ下賜し、国土保全に役立てるようと明治天皇からの指示を伝えたもの。)

文化祭参加の作品の縁で歴史ある自然と、そこにかかわった故郷と繋がる偉人の名と出会うことができた。



▲碑の前で(中央が小林さん)

姉妹町 西伊豆だより

モリアオガエルの産卵 —泡雪のような卵塊

西伊豆町の大沢里地区で、4月下旬から6月上旬にかけてモリアオガエルが産卵をします。一般的にカエルは水中に卵を産みますが、モリアオガエルは池や沼などにせり出した木の枝や葉に、泡で包まれた卵塊を産みつけるのが特徴です。産まれたての卵塊は、真っ白で泡雪のようにも見えます。卵は2週間ほどでふ化し、オタマジャクシが下の水面に落下します。

岩手県や福島県では、モリアオガエルの繁殖地として国の天然記念物に指定されている場所もあります。また近年では、繁殖数が減少し、絶滅が危惧されるとして静岡県版レッドリストにも登録されています。西伊豆町内でも、自然豊かな大沢里地区のみで観察することができ、宿泊施設の町営やまびこ荘や遊歩道沿いの池で季節の変わり目を知らせるように、いくつもの卵塊が産み付けられています。

この貴重なモリアオガエルの産卵の姿をいつまでも、見続けたいですね。



富士見町民憲章

わたくしたちは、秀麗富士を望み、雄大な八ヶ岳と眺望豊かな入笠山にいだかれた高原の町、富士見町民です。この限りなく美しく、厳しい自然の中に住むわたくしたちは先人の心を受けつぎ、自然を愛し、豊かな調和のとれた田園の町の発展をめざして、この町民憲章をかかげます。

- 一 かけがえのない自然を守り、育てていく町民となろう。
- 一 心身を鍛え、明るく健康な町民となろう。
- 一 教養を高め、香り高い文化を創造する町民となろう。
- 一 仕事に誇りを持ち、産業の発展につくす町民となろう。
- 一 思いやりの輪をひろげ、住みよい郷土をつくる町民となろう。